

東山遺跡第3次発掘調査



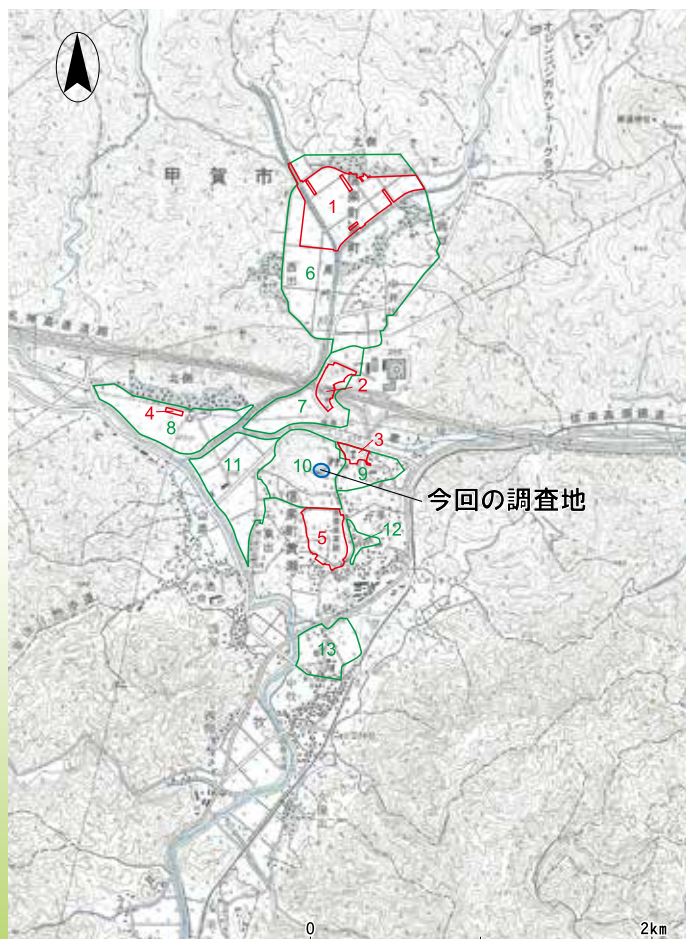
建物2と建物3（南から）

東山遺跡と紫香楽宮関連遺跡

ひがしやまいせき
東山遺跡は甲賀市信楽町の北部、きのせ
黄瀬地区に位置
します。遺跡の南約300mに甲賀寺と推定される史跡
しがらきのみやあとだいら
紫香楽宮跡内裏野地区（以下、寺院跡）、1.5km北には
みやまち
紫香楽宮の中心区画が所在した史跡紫香楽宮跡宮町地
区（以下、宮殿跡）があり、さらに東側には大規模官営
かじやしき
工場の史跡紫香楽宮跡鍛冶屋敷地区（以下、鑄銅所跡）、
ちゅうどうじょ
北側には紫香楽宮の道路遺構が確認された史跡紫香楽宮
しんぐうじんじゃ
跡新宮神社地区が隣接します。このように東山遺跡の周
辺には紫香楽宮に関連する遺跡が集中しています。



空から見た紫香楽宮跡



1～5 史跡紫香楽宮跡（1 宮町地区 2 新宮神社地区 3 鍛冶
屋敷地区 4 北黄瀬地区 5 内裏野地区） 6 宮町遺跡 7 新
宮神社遺跡 8 北黄瀬遺跡 9 鍛冶屋敷遺跡 10 東山遺跡
11 東出遺跡 12 紫香楽宮東遺跡 13 雲井遺跡

図1 東山遺跡と紫香楽宮関連遺跡群

調査経緯

第2次発掘調査において、南北方向に長い大型の掘立柱建物が見つかり、紫香樂宮に関連する施設が存在したことが明らかとなりました。その成果にもとづいて、遺構の広がりを確認するため、第3次調査では西側の区域に調査区を設定し、発掘調査を行いました(図2)。

調査の概要

【第1トレンチ】(図3)

第2次調査で検出した大型建物と一連となる柱掘方を2箇所確認しました。大型建物の西廂の延長部分にあたります。柱掘方の規模は、一辺約1.0～1.2mでした。大型建物の方位は北で西へ8度振ります。

【第2トレンチ】(図4)

第2トレンチでは、南北方向に並び一辺約0.8～1.0mの柱掘方を4列確認しました。これらの柱列は2列一組となり、梁行一間の南北棟が2棟並んで存在

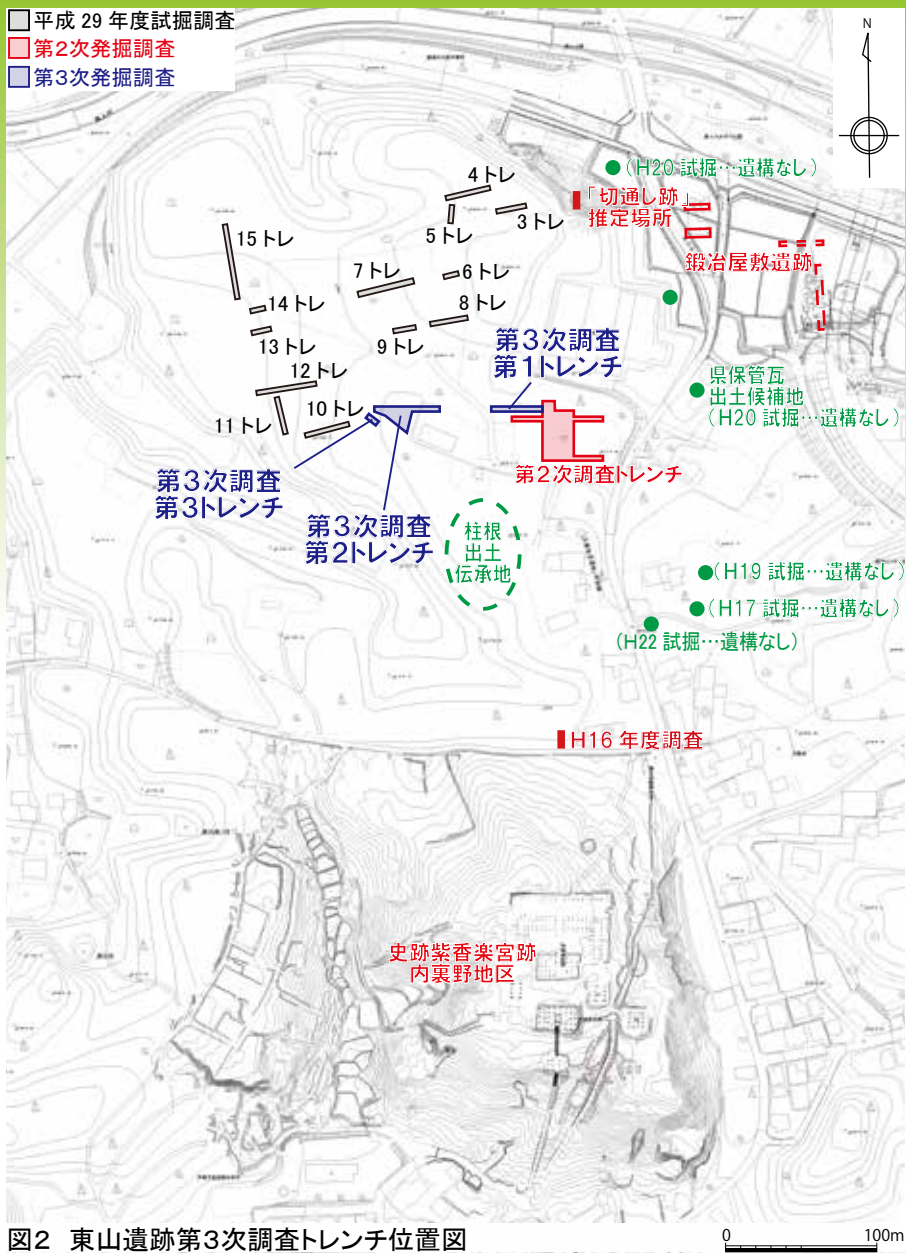


図2 東山遺跡第3次調査トレンチ位置図

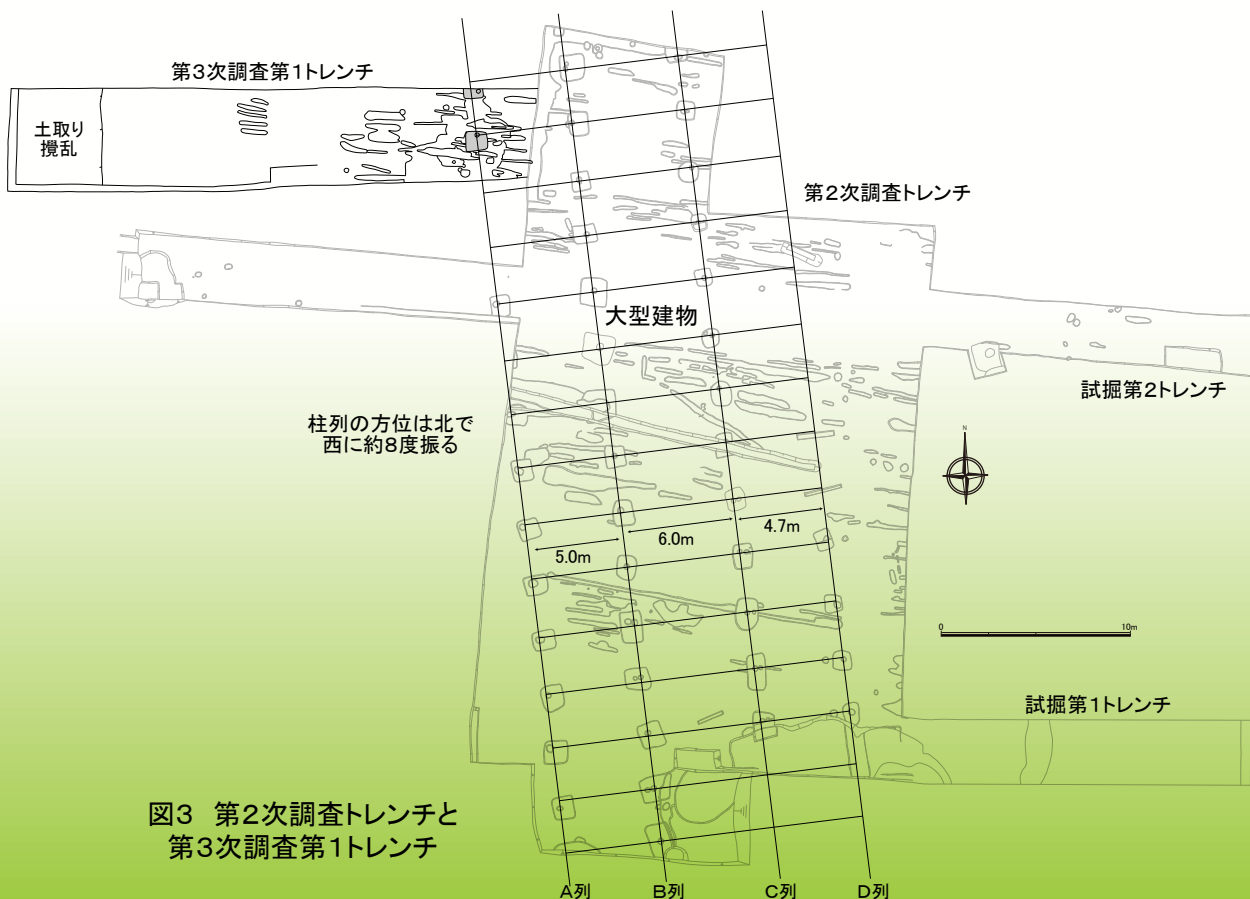


図3 第2次調査トレンチと第3次調査第1トレンチ

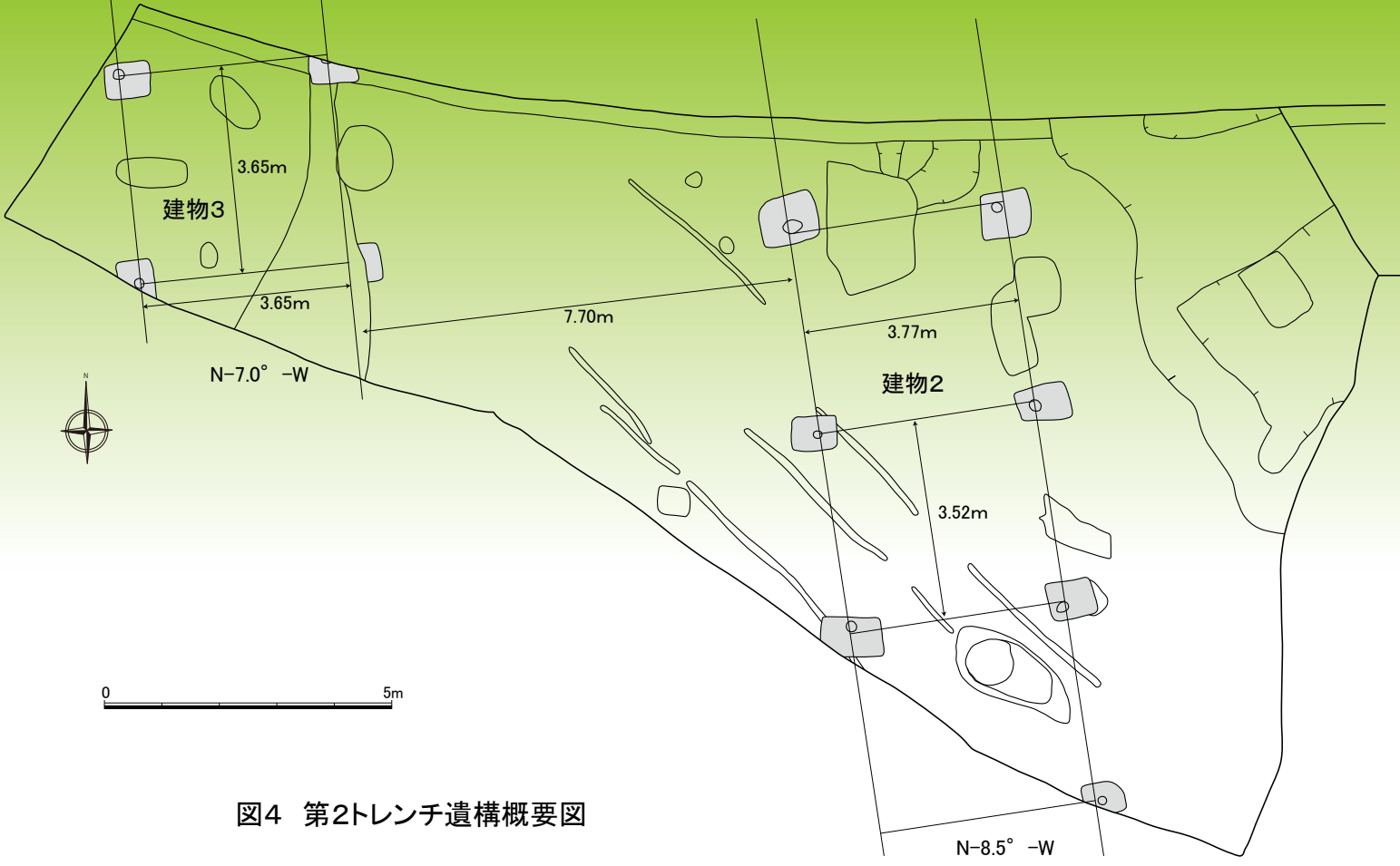


図4 第2トレンチ遺構概要図

したと考えられます（建物2と建物3）。

4列の柱列が一つの建物とならない理由は、①4列の柱列を一組の建物とした場合、桁行の柱筋と梁行の柱筋が直角に交わらないこと、②二つの建物の方位が異なること、③二つの建物の柱間寸法が異なることです。また、仮に一つの南北棟と仮定した場合、身舎の柱間が約7.7mで、25～26尺となりますが、これまでの紫香楽宮に関連する調査で見ついている身舎の柱間が25尺となる建物は、すべて東西棟で南北棟の建物はありませ

建物2 建物2は、遺構の方位が北で西に8.5度振る南北棟です。柱間は、桁行が3.52m、梁行が3.77mとなり、柱掘方がやや長方形となります。柱掘方の深さは約50cmでした。

建物3 建物3は、遺構の方位が北で西に7.0度振る南北棟です。柱間は、桁行・梁行ともに3.65mとなります。柱掘方の大きさは建物2よりもやや小さいですが、柱掘方の深さが20cm程度であることから、削平によって柱掘方の大きさが建物2より小さくなっていると考えられます。

【第3トレンチ】

第3トレンチでは、現代の攪乱や耕作に伴う遺構を検出したのみで、大型建物や建物2・3と関連する遺構は確認できませんでした。後世の削平により遺構が残っていないと考えられます。



第1トレンチ全景（東から）



第1トレンチ 柱列（南から）

まとめ

今回の調査成果をまとめると、次の5点が挙げられる。

- ① 大型建物・建物2・建物3の柱掘方の規模は1 m前後。
- ② 3つの建物の方位は北で西に7.5～8.5°の振れ。
- ③ 周辺の遺跡で見つかった柱掘方の規模と比較して、紫香楽宮に関連する建物の可能性が高い。
- ④ 大型建物（東側）と建物2・3（西側）は、一対のものではない。
- ⑤ それぞれ別の尾根上に存在する建物であったと考えられる。

上記の5点から、東山遺跡で見つかった大型建物と建物2・3が左右対称で一対となる建物配置ではないことが分かりました。したがって、コの字型の配置にはならないと考えられます。

第2次調査と第3次調査を通じて、遺物が出土していないため、建物の性格を絞り込むことは難しいですが、第3次調査の第2トレンチで見つかった建物2と建物3が梁行一間の南北棟で、2棟並列するように配置される様子は、儀礼的な空間利用というよりも実務的な施設であった可能性が高いと推定されます。

現段階で東山遺跡で見つかった建物群の性格を断定することはできませんが、寺院跡から続く一連の丘陵上に立地し、実務的空間の可能性が高まったことから考えると、甲賀寺との関連性が強い施設であったと想定されます。

いずれにしても、東山遺跡の発掘調査の成果は、紫香楽宮の全容を解明するために重要な知見を与えてくれると言えます。今後の紫香楽宮に関する調査に期待したいです。



第2・3トレンチ全景（垂直）



建物2 柱掘方検出状況



建物2 柱掘方断面



建物3 柱掘方検出状況